

令和5年度第1回
総合教育会議 会議録

開催日 令和5年5月31日

南あわじ市教育委員会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

令和5年度第1回南あわじ市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和5年5月31日(水)

午前 9時53分 開会

午前 11時53分 閉会

2. 開催場所 南あわじ市役所 第2別館 第5会議室

3. 協議事項

- (1) 読解力の向上と読書活動の推進について
- (2) 学ぶ楽しさ日本一のPRについて

4. 出席又は欠席した構成員氏名

出席構成員

<南あわじ市>

市長	守本 憲 弘	教育長	浅井 伸 行
教育長職務代理者	青木 京	教育委員	敷田 久美子
教育委員	近藤 幸 常	教育委員	山本 真也

<学校組合>

管理者	守本 憲 弘 (兼務)	教育長	浅井 伸 行 (兼務)
教育長職務代理者	狩野 時 夫	教育委員	近藤 幸 常 (兼務)
教育委員	山本 真也 (兼務)		

欠席構成員

<学校組合>

教育委員 本條 滋 人

5. 事務局関係職員氏名

総務企画部付部長	家田 和 幸	ふるさと創生課長	秦 伸 行
子育てゆめるん課長	中嶋 宏 昭		
教育次長	福田 龍 八	教育次長補兼学校教育課長	上原 泉
教育総務課長	秀 充 浩	社会教育課長	山家 光 泰
体育青少年課長	阿萬野 真司		
読書活動推進員	榎本 周 造		
教育総務課係長	佐々木 友美	教育総務課主任	大西 重三子

1 開 会 午前10時00分

【秀教育総務課長】 定刻になりましたので、ただいまより、令和5年度第1回南あわじ市総合教育会議を開催いたします。

(秀教育総務課長より、出席者の紹介)

【秀教育総務課長】 本日の会議を傍聴される方は、南あわじ市総合教育会議傍聴要領に準じて傍聴されますようお願い申し上げます。

2 市長あいさつ

【秀教育総務課長】 開会にあたりまして主催者であります、守本市長よりご挨拶申し上げます。

【守本市長】 本日はご多忙の中、令和5年度第1回南あわじ市総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。また日頃は南あわじ市の教育環境整備にご尽力いただき誠にありがとうございます。

本日は「読解力の向上と読書活動の推進について」「学ぶ楽しさ日本一のPRについて」を議題としてご意見いただきたいと思います。読解力の向上も「学ぶ楽しさ日本一」の柱ですので、どちらも学ぶ楽しさ日本一に関して協議いただくことになるかと思っております。

「学ぶ楽しさ日本一のPRについて」は、私の方からお願いして議題にいたしました。その背景として、今までコアカリキュラム、防災教育、アフタースクールなどの取組を進める中で、学校現場の意識も少しずつ変わりつつあるのかなと思う一方で、市民の方にあまり理解されていないのではないかという問題意識もございます。そもそもコアカリキュラムという名称がわかりにくいという課題もあります。私自身、支援者の方から「学ぶ楽しさ日本一」って何やってるの、というご質問をいただいたこともあります。もっとわかりやすい発信に取り組みはじめておりますので、皆様方にご紹介させていただきご意見をいただきたいと思っております。

それでは最近の社会教育の取組等についてご紹介させていただきます。

まず、淡路人形座の組織体制改革についてです。淡路人形座は、現在は公益財団法人淡路人形協会が運営しておりますが、コロナによる影響もあり、現体制では運営がままならないということから、淡路人形浄瑠璃保存伝承検討委員会に検討いただいた結果、株式会社うずのくに南あわじへ経営移管する方向で準備しております。

次に、歴史を活かしたまちづくりについてです。令和4年度から歴史や文化を通して神河町との交流がはじまっております。神河町では福本遺跡、古墳群、生野銀山などの文化遺跡があり、南あわじ市でも淡路島全体の日本遺産や最近注目をされてまいりました戦争の遺構などがあることから、今後相互交流を見据えた取組を検討してまいりたいと思います。

次に、南あわじ市の地域創生にかかる包括連携協定についてです。淡路三原高校、淡路景観園芸学校、国立淡路青少年交流の家、南あわじ市の4者において「総合的な探求の時間」やふるさと学習により生徒が地域の課題を勉強して解決のために提案をするという活動を行っております。内容は、毎年進歩しており、生徒の中でも問題意識が深まりつつあると感じておりますので、さらに地域や社会問題の解決に関心を持つ人材を育てていけたらと思っております。

次に、アジア国際子ども映画祭についてです。コロナの影響で3年間開催を見送っておりましたが、今年度はアジア15か国の皆さんの参加を募って12月16日に本選大会を開催する予定です。

最後に、アフタースクールについてです。八木から始まったアフタースクールですが、現在は15校区のうち9校区で実施しております。令和8年度には全校区で実施したいと考えておりますが、スタッフの人材育成と人材確保、また場所の確保が課題となっております。子ども達が集団で自分たちのしたいことにチャレンジするいい機会ですので、さらに良い面を伸ばしていけるよう取り組んでまいりたいと思います。

3 議 事

【秀教育総務課長】 本日の協議事項に入ります。

協議事項につきましては事務局からご説明申し上げますので、進行につきましては守本市長、よろしくお願いいたします。

【守本市長】 それでは次第に従いまして協議事項に移ります。

(1) 読解力の向上と読書活動の推進について

【守本市長】 まず協議事項の1つ目、「読解力の向上と読書活動の推進について」を、事務局より説明をお願いします。

【中嶋子育てゆめるん課長】 私の方からは乳幼児期の読解力の向上と読書活動の推進

について説明させていただきます。

「親子が家庭や保育所等の身近な場所で日常的に習慣として絵本で触れ合っている」という読書の習慣づくりをめざし、「絵本ふれあい事業」を実施しております。読解力の向上のためには幼児期から充実した読み聞かせ活動が重要であると考えております。子育て学習・支援センター、保育所、こども園、幼稚園、各地区公民館や図書館等においてそれぞれ絵本の読み聞かせ等さまざまな取組を行っております。

具体的には、子育て・学習支援センターでは「おひざの上のお話会」「絵本読み聞かせ」「絵本作り体験」などを行っております。活動実績としては、令和4年度では7回実施し、参加人数延べ252人、親子100組、親103人、子ども149人の参加です。令和3年度は5回実施、延べ192人、令和2年度は4回実施、延べ122人の参加となっております。

保育所、こども園、幼稚園では様々な取組を行っております。

「絵本の読み聞かせ」を全施設全クラスでほぼ毎日実施しております。

「絵本の貸出」は全施設で毎月家庭への貸出を行っております。各園でテーマを決めたり、劇遊びに向けた題材を選んだり、年齢、季節、興味、行事、生活に沿った絵本を選んだり、工夫して取り組んでおります。

「回覧絵本」はクラスでテーマを決めた絵本を家庭へ回覧し、親子で読んで感想を書き添えていただいております。その内容からも絵本はとても大きな効果があることを実感しております。

最後に、ショッピングセンター・シーパの「キッズタウンコーナー」に今年度より絵本コーナーを増設し、4月30日には「読み聞かせ教室ピノキオの会」と「おもいやりポイント事業の協力会員」の方がそれぞれ絵本の読み聞かせを実施しました。うれしいことに、今後もシーパで毎月第2・3・4金曜日の午前11時から、おもいやりポイント事業の協力会員の方により「読み聞かせの日」を定期開催することとなりました。

以上でご説明とさせていただきます。

【上原教育次長補兼学校教育課長】 私からは学校の取組について説明させていただきます。まず、今年度より学校司書を1名増員し、3名体制で市内小学校15校の中で1人あたり5校を担当し、週1回のペースで各校を回っております。さらに読書環境を充実させるため、学級文庫を充実するとともに、学校図書館のリニューアルを賀集小学校で行っております。

また、令和3年度より読書活動推進員を配置し、様々な読書習慣の形成の取組を行っております。配置1年目は「朝の読書」から取り組みました。2年目は読み聞かせと読み合いに力を入れて来ました。3年目となる今年度は「うちどく」を進めてまいります。

それでは、取組の効果についてご説明いたします。「朝の読書のススメ」のリーフレットをご覧ください。読み聞かせの効果として、学力向上、情操の発達、円滑な対人関係が期待できます。次に「読書のススメ」というリーフレットをご覧ください。各学校の実践と報告を掲載しております。松帆小学校と福良小学校ではモデル校として読書活動に特に取り組んでおりました。また賀集小学校の大規模改修と同時に学校図書館のリニューアルを行いました。それではここで新しくなった賀集小学校図書館に関する動画をご覧ください。

(賀集小学校図書館の動画視聴)

【上原教育次長補兼学校教育課長】 次に「うちどくのススメ」というリーフレットをご覧ください。「うちどく」は家庭を巻き込んで取り組んでおります。

【榎本読書活動推進員】 補足して説明いたします。読書活動推進員として3年目になりますが、読書環境を整えるということが非常に大事だと感じています。そこで、学級文庫を充実させたり、学校図書館を子どもが行きたくなるような場所にリニューアルしたり、学校司書の増員もしていただきました。学校司書の配置により、授業に活用できるような資料を図書館から学級へ持ってくるができるようになり、授業の理解が深まったという話を聞いております。これらは外的な図書環境であると思えます。

内的な図書環境として、読書をする機会を保障することが大切になってきます。中学校では二十数年にわたって朝の読書に取り組んでおります。小学校でも実施していましたが、基礎学力を充実させる方へ力が入っておりました。そこで小学校でも朝の読書を毎日続け、絵本の読み聞かせを始めております。非常におもしろい取組を一つ紹介いたします。「読書のススメ」にも掲載していますが、教員向けに読み聞かせの講師をお招きして研修を行ったところ、受講した教員2名が、子どもが子どもに対して読み聞かせしてはどうだろうと考え、朝の読書10分、子どもによる読み聞かせ5分を毎日行いました。すると、読み聞かせに非常に子どもがハマったのです。なぜだろうと考えたとき、絵本の読み聞かせは舞台の上で役を演じるように、一つの表現活動なのです。ですから家でも学校でも読み聞かせの練習を子どもたちが一生懸命行うようになり、読み聞かせができない日は子どもたちが「今日はせえへの？」とたずねるくらいになりました。国語の問題文が読めなかった子どもがだんだん読めるようになり、国語力が上がるという効果も実際に見えてきています。読み聞かせを家でも練習しますので、うちどくにもつながっていきます。年度末には数名の保護者から、子どもが本を読むようになってうれしい、という感想をいただいたそうです。毎日継続することで子ども達が進んで取り組むようになり、国語力をつけていくことになった

のでは、と感じています。これらの取組は他の学校でも成果が出てきています。

賀集小学校の図書館リニューアルは、新しくなった図書館に最初はたくさんの子ども達に来ていましたが、今はだんだん減ってきています。しかし図書館リニューアルの効果としては、教職員の読書に対する意識が高くなり、毎日読み聞かせをするようになったり、図書館を使った調べ学習への意欲へつながっています。

【山家社会教育課長】 私の方からは、市立図書館、中央公民館図書室、広田地区公民館図書室、湊地区公民館図書室の取組についてご説明いたします。これらの図書施設を中心として、3つの取組を行っております。

1つ目の取組「学校連携の継続及び新しい取組の試行」では、沼島小中学校への配本サービス、昨年度から南淡中学校への「先生の読み聞かせ用絵本」の配本を読書活動推進員とともにしております。

2つ目の取組「すべての年齢へ切れ目のない読書活動支援」では、4か月検診で「ブックスタート」として絵本を配布し、中高生への読書推薦図書コーナーや、話題や人気の本コーナー、すえひろ文庫コーナーを展開しております。ブックスタートでは、0歳、2、3歳、4、5歳のそれぞれ年代に合わせたブックリストを作成して配付しており、非常に好評を得ております。

3つ目の取組「来館者増加につながる事業を定期的に開催」では、今年度、小学校1年生全員に読書手帳の配布を予定しています。読んだ本が見える化することで、子どもたちの読書意欲を高めていきたいと思っております。ほかに、読み聞かせ会、雑誌リサイクルフェア、本の福袋貸出、図書館カウンター体験、さまざまな図書館イベント等に取り組むことで、コロナ禍で減少した来館者数の増加へ繋げていきたいと考えております。また、昨年度、市立図書館前に公園を整備し、親子連れの利用者が増えてきており開放的な空間が好評を得ております。今後、公園利用者に対する読書に親しむしかけづくりが必要かと思っております。

今後の取組としましては、南淡中学校へ行っている先生の読み聞かせ絵本の配本を広田、西淡、三原中学校へ拡大していきます。また、学校司書との情報交換会を年1回から年2回にし、連携強化を図ります。さらに、地域資料の収集を市民協働課と連携して進めたいと思っております。

また、読書手帳の配布を全学年へ拡大することを検討しております。各図書施設のうちどくコーナー、すえひろ文庫、取次サービスのPRを積極的に行っていきます。

来館者増加につながる取り組みとしては、絵本専門士による読み聞かせ講座の開催や、新図書システムについてホームページや広報紙でPRしていきます。調べ学習講座、埋蔵文化財事務所の「どうたくまつり」等のイベントを開催していく予定です。

【守本市長】 説明が終わりました。

それでは、順に委員の皆様のご意見をおうかがいしたいと思います。

【近藤委員】 さまざまなリーフレットや資料を用意していただき、非常にわかりやすかったです。リーフレットに掲載されている子どもの表情から真剣さが伝わってきました。榎本読書活動推進員は非常にやりがいのあるお仕事をされているのだと感じました。幼児から児童生徒、成人に至るまで切れ目のない取組がなされていると思います。

最近ではスマホ依存という問題が出てきております。デジタル機器の影響は特に幼少期には大きいのではないかとされており、人間関係の形成に苦勞したり、発達障害と思われる子どもの何割かは幼少期の環境が影響しているのではないかと聞いたことがあります。目と目を合わせて対話することが大切なことであるという指摘もあったかと思えます。

保育所の絵本の貸出についてですが、我が家の孫たちが保育所から絵本を借りてくると話題に上がり、孫を通して家庭でも本に親しむ機会が増え、非常にありがたく思います。

また、学校司書を増員して各学校に配置していただいたことや、家庭での「うちどく」の取組には非常に大きな期待を寄せています。

「読書のススメ」リーフレットの中に、南淡中学校1年の担任の先生の話が掲載されています。その中で「絵本を読むことで、教師と子どもの間でよい人間関係ができるのは日々実感しています。」「将来、親になったとき、この中学校3年間の読み聞かせの経験で、自分の子どもに読み聞かせをしてくれるようになることを願っています。」とあります。これを読んで、現在の取組が次の世代の子育てにまで影響を与えるのだと感じました。幼少期から社会期になるまで、さらに次の世代までいい影響をあたえられる素晴らしい取組となり、南あわじ市で子育てをしたいという人の増加につながってほしいと期待しています。

【數田委員】 読書活動が推進されているという報告をうれしく思いました。言葉とのかかわりが人間形成に最も大事なことだと思っています。しかし最近の子どもの会話を聞いていると「やばい」の一言で何でも片づけてしまうというように感じます。語彙力があるということは、自分の気持ちや感情の表現が増えるということですから、これからもどんどん読書活動の取組を推進していただけたらと思います。

タブレット、スマホなどでは、言葉で質問して回答が返ってくるという機能がありますが、自分の思うような回答を得られないとけんか腰で乱暴な言葉を使い、ボタン一方的に切ってしまうということがあります。人間同士のやりとりをしなくても困らないような環境になってきていることを危惧します。幼児期に人とのかかわりの中で育てる取組を進めてほしいと思います。また、学校訪問で授業参観させていただくと、

対話的な時間を持つ授業がだんだん減ってきているように思います。スイッチ一つで切ってしまうような人間関係ではなく、学校でも対面で話し合う時間を多くして人間対人間の経験を教育現場で進めてほしいと思います。

少し違う話になりますが、どの家庭にも読まなくなった本があると思うのですが、廃品回収で捨てるのではなく、再び活用できる場があればと思いますので、子ども達の読書環境を充実させるために一度検討していただきたいと思います。

また、読書と遊びができる場が市内にいくつかあればいいのではないかと思います。放課後行き場のない子供たちがそういう場所で本を読んだり友達と触れ合える機会となればと思いました。

【青木委員】 この議題をいただいた時に、話したいなと思っていたことがすべて今回の資料に書いてありましたのですごいなと思いながら読ませていただきました。「朝の読書のススメ」のリーフレットには、「読む本は何でもいい」「ただ読むだけ」とあるように、読みたくない本を無理強いするものではないということが書かれていますので、家庭に配るのもいいと思います。

昨日、子どもに「読書」と聞いて何を思い出す？と聞いてみました。すると、読みなさいと言われて読むのがすごく嫌だった。読書感想文という夏休みの宿題を切り捨ててしまいたいくらい、読むのも書くのもつらい。と言っていました。読書感想文から読書が嫌いになってしまうくらいなら、書きたい子だけ書いたらいいのではないかと保護者も思っています。保護者も「書いたの？読んだの？」と夏休みの間中言い続けているところがあります。手放せるなら手放してしまいたい課題の第1番かなと思います。書くこと、読むことが大事なことだということはわかっているのですが、その手段が読書感想文でなくてもいいのではないかなと思います。

市立図書館前に公園が整備されたというお話がありました。私はまだ行ったことがないのですが、公園と図書館がつながるといいなという思いは昔から持っていました。私は、古民家を再生して遊び場のような場を設けているのですが、この前、本箱を外に出して草地に置いてみると子ども達がどうするか見てみました。すると、草地の上に敷かれたシートの上に寝転がって読んだり、お母さんに読んでとお願いしたり、普段本を読まない子が環境を変えると読むようになったり、お日様の下で読むのが楽しかったりするんですね。子どもが本を読んでいる横で保護者がお茶をするような空間があると、なんとなく子ども同士のかたまりができ、親のかたまりができ、交わっている部分もあるというような曖昧なスペースはとてもいいと思います。青空と館内の静かなスペースとワイワイできるところが交わるような場があればいいなとも思っています。図書館は静かにしないといけないという意識があって気を遣いますが、図書館が癒しの場所になればいいと思います。

少し話が違うかもしれませんが、図書の修繕という作業を、ただシールを貼る、ビ

ニールを貼るというだけでなく、のりや刷毛を使いながらきちんと直すという作業を子ども達にやってもらうのもいいのではないかと思います。修繕の先生がいなくても本を調べながら修繕ワークショップみたいなことができないかなと思います。本を読むことは好きではないけど、手先を使うのは好きといった子どもが楽しめるイベントを図書館内の空きスペースなどでできないかなと思いました。

【狩野委員】 タブレットでの読書と書籍での読書は大きな違いがあると思います。先日「本好きな子どもを育てるには」ということをチャットGPTで質問してみました。その結果、6つの回答が出てきました。①身近に本を用意する。②一緒に読書をする。③読み聞かせをする。④本に関連する活動を提供する。⑤幅広いジャンルの本を提供する。⑥読書を強制せず楽しむことを促す。という回答でした。確かにそうなのですが、私は一番大事なのは学校と家庭の連携だと思います。例えば、先生が連絡帳に「本読みが上手でした。聞いてあげてください。」と。後日、子どもから、お母さんが本読みを聞いてくれたよ、と報告を受けたら「いいお母さんだね。」というやりとりがあると、ますます本を読むようになるのではないかと思います。そのような繰り返し、家庭と学校との信頼関係につながり、何かあった時にもスムーズに解決できるのではないかと感じました。

教員が国語の授業の中で、登場人物の心情に迫るような深いところまで掘り下げたり、物語文の主題について子ども達が話し合ったり読む楽しさを教えることを繰り返すことで、本が好きになっていくのではないかと思います。また、同居してない祖父母がテレビ電話などで本読みを聞いてあげるということもできるのではないのでしょうか。学校と家庭の連携が読書好きな子どもを育てることにつながると思います。

【山本委員】 「読書のススメ」のリーフレットの中で「読み聞かせのある教室」が紹介されていますが、すべての学校で実施されているのですか。

【榎本読書活動推進員】 すべてではなく、現在6校で実施しています。

【山本委員】 子どもが子ども達へ読み聞かせをするという取組は、私が小中学生の時にはこういう機会はありませんでした。社会に出て大勢の前で話をする機会が増えましたが、自分の意見を人前で話すためには事前の準備が必要です。市内の子ども達が読み聞かせができるよう、すべての学校でこの取組が広がればとてもいい経験になるのではないかと思います。自分の読み方で本の内容を伝えるということは難しいけれど大切なことだと思います。もし機会があれば、私もとても興味がありますのでその様子を見に行かせていただければと思いました。

賀集小学校図書館の動画を見せていただきましたが、白い本棚で明るい空間で本を

読みたいという気持ちにさせるような場所になっていると感じました。地区図書館はじめ、居心地いい環境づくりを進めていただければと思います。

【浅井教育長】 現状としては各場所で同じ方向を向いて取組ができていていると感じています。市長にも実際に学校に訪問して読み聞かせしていただいております。

まずはこの取組をこれからも継続をしていくことが大切であると思います。

次に環境づくりです。身近に本がある環境を家庭も含めて行うことと、学校、図書館、絵本コーナーなどを通してさまざまな読みたくなる環境を提供することです。青木委員からもお話があったように、ただ静かなだけではなく、鳥のさえずりや子どもの笑い声が聞こえるような中での読書は非常にいい環境であると思います。

これらの取組を広げていくためには、やりたいことを自主的にやっていくということが大事だと思っています。読解力の向上は本を読ませることや、読解力の向上により基礎学力が上がるということが最終的な目的ではありません。本を読むことで知的好奇心を刺激し、何かを知りたいという意欲につなげ、自分から何かをやるということが「学ぶ楽しさ日本一」の基本的なことであると思っています。近藤委員や数田委員からさきほどお話がありましたように、バーチャルの世界に入り込んで人間関係を構築する力を阻害してしまうことを改善する力になるのではと思います。

【守本市長】 さまざまなご意見がありましたが、総体的には、大変良い取組なのでどんどん進めてくださいというごことなのかなと思いました。

青木委員から、「朝の読書のススメ」といったリーフレットをどこに配るのかという話がありましたが、せっかくいいことをやっているのもっと外へもPRしてほしいと思いました。例えば移住希望の方などへもPRできるのではないかと思います。

また、図書館と遊び場との一体化のお話では、私は以前より市立図書館前の公園を作りたいという思いがありこのたび実現しましたが、できればもう少しスペースを広げてカフェのような空間が一緒になると、青木委員がおっしゃったような場が作り出せるのではないかと思います。

本を読むということが人間関係を作るというお話がありましたが、大変重要だと思っています。保育にしても学校教育にしても大人が子どもと接する時間が他のことで削られているという感じがしておりまして、読書活動はそれを取り戻すのに有用なのではないかと思っています。学校の先生方は大変忙しいですが、事務作業のようなものをどのように効率化するかということも必要なのではないかと思っています。

(2) 学ぶ楽しさ日本一のPRについて

【守本市長】 続きまして協議事項(2)の学ぶ楽しさ日本一のPRについて、を議題といたします。

この件については、私の方から教育委員会にこれまで何度か宿題を出していることです。2年前に、市のシティプロモーション室にサントリーの方に来ていただいて、政策を市民に知ってもらう対外的に有効な手段を考えていただいております。そこで動画を教育委員会と協力して作っておりますので、動画を見ていただいて、ご意見をいただければと思っております。

それでは、事務局より説明をお願いします。

【秀教育総務課長】 最初に、アフタースクールのPR動画をご覧くださいませ。

(アフタースクールのPR動画 視聴)

【秀教育総務課長】 教育委員会での学ぶ楽しさPRの取組については、資料にありますように課様々な手段を活用してPRを行っております。

【上原教育次長補兼学校教育課長】 PRに関連しまして、コアカリキュラムを取り組み出してから5年目を迎えておりますが、「コアカリキュラム」をわかりやすく説明し、理解していただくのが難しいという課題がございます。そこで、「コアカリキュラム」という名称を「ふるさとを創造する児童・生徒育成プロジェクト」通称「ふる創」と名付けてはという提案をしております。

「コアカリキュラム」は、「知恵あふれ、ふるさと南あわじ市を大切に作る人材」に必要な資質能力を育成することをめざし、ア) 互いの強みを認めあいチームとして高め合う力、イ) 周りの状況からよみとったり、自ら収集したりした情報を処理し、活用する力、ウ) 課題を明確に把握し、見通しをもって主体的に取り組む力、の3つが関連する資質能力であると考えております。これは人形浄瑠璃を題材にしたコアカリキュラムだけでなく、防災教育や普段の授業でも子どもの資質能力育成することを念頭に置いて教員は取り組んでいくこと、また保護者や外部の人にも理解いただき、子ども達には自分を磨くプロジェクトとして取り組んでいるんだということをわかってもらい、何を目標としたものかをしっかり定めてPRしていくために、名称を提案しております。

【守本市長】 以上で、説明が終わりました。

各委員から、お考えやご意見等をおうかがいたします。

【山本委員】 アフタースクールのPR動画をみせていただきましたが、小学生だけで

なく、中学生の部活動の地域移行のこともありますので、中学生のPR動画や、社会体育のPRなどがあればいいのではないかと思います。

【狩野委員】 アフタースクールの動画は、短時間でしたがすごくいい取組だと思いました。映像の効果はとても大きいです。NHKの地元のニュースを見ていると、南あわじ市ことが良く取り上げられており、行ってみたいと思う気持ちにさせるんですね。またこれもNHKのニュースで放送されておりましたが、神代小学校の子ども達が主体的に体育会に取り組んでいる様子が大変良かったです。子ども達が目を輝かせていきいきと取り組んでいる姿を大勢の人に見てもらうことはとても効果があると思います。

人材不足の中で、アフタースクールの指導者の資質を高めるというのはとても大変だと思いますが、どのようにされているのでしょうか。

【阿萬野体育青少年課長】 アフタースクールの指導者については人材不足で苦労しているところですが、現在NPO法人と連携して、ノウハウを持った方から指導いただき指導者育成に取り組んでおり、高い水準の指導力を保っておりますのでこの状態をさらに広げていきたいと思います。

【守本市長】 指導者は、将棋やプログラミングなどは地域の方である「まちの先生」による指導と、マット運動ではFC.AWJの選手が社会貢献の一環として、またフラダンスはプロの先生にご指導いただいております。

【青木委員】 私は、「学ぶ楽しさ日本一」としてのPR動画を作ってもいいのではないかと思います。乳幼児、小学生、中学生、社会人、図書館などすべてが「学ぶ楽しさ日本一」ですよ！というものがあってもおもしろいと思います。また、先ほどの動画ではあえて子どもの声を消していましたが、子どもの笑い声や臨場感が伝わる音が入っている動画も楽しいと思います。

【守本市長】 学校教育の関係でもPR動画を作ろうとしていたのですが、学校教育の学ぶ楽しさをどう表現するかが難しいというところもあります。人形浄瑠璃を活用するというのもできると思いますが、短い動画をパッと見てわかってもらうということが難しいところです。

【秀総務課長】 学校教育では「学ぶ楽しさ」の内容がたくさんありすぎて短い動画で集約すると、わかりにくい内容になってしまうということもあり、動画にすることに苦慮しているということは聞いています。

【青木委員】 南あわじ市の動画を一つ見て、南あわじ市の他の動画を見たくなって探した時にすぐ他の動画が出てくるということは大事だと思います。見たくなる、調べたくなる、手が伸びる、というふうになるといいなと思います。

あと、他の保護者と話していると、「学ぶ楽しさ日本一」が保護者には一切浸透していないと感じます。キャッチーな「日本一」というところが印象に残って「そんな無理やん。」で終わってしまうのがとてももったいないと思いました。「学ぶ楽しさ日本一」の目的が見えてくると本質が伝わってくるように思いますが、言葉だけが走ってしまっているように感じています。

【數田委員】 先ほどの動画では南あわじ市の特徴が今一つ感じられませんでしたので、もう少し焦点化した方が特徴が出るのかなと思いました。田舎へ移住したいという希望も多いですし、実際に南あわじ市へ移住した方の中には特技や能力を持っていらっしゃる方がたくさんいらっしゃいますので、そういう方々に協力していただけるようなPRをしてはどうでしょうか。

【近藤委員】 PRといえはICTの活用が切り離せませんが、保護者への浸透という意味では、身近なところから頑張れるのではないかと思います。

学校長が、PTA総会、役員会、学校だより、児童集会、生徒集会など機会をとらえて、「うちの学校では学ぶ楽しさ日本一をめざしてこういうところに取り組んでいきますよ。」「今月はこういうことをやっていきますよ。」ということは何度でも繰り返して伝えて実践してほしいと思います。そして、先生方には授業の中で、「学ぶ楽しさ日本一をめざして、私の授業ではこういうことをやりますよ。」、イベントでは「今年の体育会ではこういうことをやって日本一をめざしますよ。」ということを熱い言葉で話していただきたいと思います。そうすることが教職員の方々の指導力にもつながり、熱く語ることでその思いが、子ども達にもだんだん浸透して、それを家庭で一言でも話題にしてもらえたら、大変大きなPRになると思います。

【浅井教育長】 南あわじ市が学力でがんばっている、読解力向上に取り組んでいる、とPRしても、全国の様々な自治体で同じような取組もあるため、あまり印象に残りにくいのですが、「学ぶ楽しさ日本一」という言葉はキャッチコピーとしてもとても印象的であると思います。興味を引くことで「学ぶ楽しさ日本一」とは何だろうと考えていただくきっかけになります。

学校関係者、保護者等には授業参観や学校だより、学級だよりなどを通して理解していただくと同時に、日常、学校に関わりのない方に「学ぶ楽しさ日本一」を理解していただくために、地区公民館で学校の取組を掲示することを現在もやっていますが、

その他に、各学校での取組をパワーポイントで作成しておりますので、様々な施設でその映像を活用していくことを検討しています。

アフタースクールは子ども達が自らやりたいことを選んで参加し、可能性を広げていく「学ぶ楽しさ日本一」を象徴する取組だと思っています。

【守本市長】 「学ぶ楽しさ日本一」をかかげて5年目になりますが、保護者はあまり理解していないと思いますし、どんな取組をしているかほとんど知られていないと感じています。ということは、子ども自身も理解していないし、家で語れていないということだと思います。

「学ぶ楽しさ日本一」をスタートする時にどうやって浸透させていくかを議論した際に、校長先生に語っていただくことではないかという話がありました。しかし現在校長がそれをできないでいるということが問題だと思います。

私は「学ぶ楽しさ日本一」はキャッチコピーではなく実現しなければならない目標だと思っていますので、先ほどの発言にちょっとがっかりしました。校長、教師が今のまま変わらないのであれば周りから変えていき、周りが理解すれば先生方も目について理解してくれる人もいるのでは、と思います。私がそのように思うのは、おそらく先生方は理解されていないと思うからです。

アフタースクールは少しずつ進んでいますが、学校教育に「学ぶ楽しさ日本一」の精神が浸透しているかという点、私の期待からはかなり遅れていると思っています。

【浅井教育長】 学校の取組を民間の施設で情報発信する方法について検討する中でコロナの影響により延期されました。どんな形で発信していけばいいのかということもあります。「学ぶ楽しさ日本一」は目標であると同時に最初に目にして印象に残る言葉としてキャッチコピーと表現させていただきましたが、目標でないとは思っていません。

【守本市長】 コロナ禍で学校現場が大変だったということは理解していますが、校長が外へ向かって自分の考えを語る機会が全くなかったとは思えないのです。3年間一度もそういう話が聞かれなかったことに問題があると思います。これは教育委員会の姿勢が問われていると考えています。

【上原教育次長補兼学校教育課長】 学校として取り組んでいることはあります。スクールチャレンジ事業では、校長先生がどんな学校にしたいか、どんな子ども達を育てたいと思っているか、そのために行う事業を楽しんで取り組んでもらうために各学校へ補助金を交付しています。自分が主体になることを意識し、先生方は自ら研修を受講する、子ども達も自分から学ぶ、というところからスクールチャレンジ事業ができ

ました。その成果を見える形にするために、各学校でパワーポイントを作成しています。

【守本市長】 学校訪問を実施する中で、校長先生はじめ先生方が、「学ぶ楽しさ日本一」のためにこんなことを実施していますというようなことをどの程度語っていたでしょうか。おそらく語られていなかったと思っていますがどうですか。

【青木委員】 私の印象ではおっしゃるとおりだと思います。

【守本市長】 教育に時間がかかるのはわかりますが、もう5年も経ちます。取り組んでいる本人たちがこういう思いでこういうことをやっているということが語れないということについてどう考えるのか、そういうことかと思います。

【青木委員】 数年前、三原中学校で「学ぶ楽しさ日本一」って君たちにとってなに？というワークショップを全校生に向けて行っています。その結果が興味深く、生徒たちが「三原中学校でめざすなら・・・」ということをもとめたそうです。先生のワークショップ、子どもだけのワークショップをやってみるのもいいのではないかなと思いました。

保護者は、『私たちの市は「学ぶ楽しさ日本一」であると言っている。』と思っています。そうではなくて「学ぶ楽しさ日本一」をめざしているんだよ、と伝えると「ああそうか」という感じです。

先日、辰美小学校体育会の挨拶の中で、校長先生が「学ぶ楽しさ日本一をめざしていますが、・・・」とあいさつしていましたが、これだけでは本質が伝わりにくいので、教育長がおっしゃるように、「学校ではこういうことをやって学ぶ楽しさ日本一をめざしています。」というように伝えていただければと思います。

【守本市長】 先生がやってくれないのなら包囲網で外から理解を促そうかという思いと、もちろん保護者や市民に理解いただきたいという思いもあります。学校が外向けに「こういう取組をします」と発信すれば、それはもう、やらざるを得ない状態を作れるということもあります。

【青木委員】 山本さん、PTAで話し合っていたいただくことは難しいですか。

【山本委員】 難しいと思います。学校が主体となってPTAが応援する形で進めていく方がいいと思います。今はコロナ禍を経てPTA活動が大分減っている状態なので、コロナ禍前の活動状態に戻していくところから始めることになります。PTAで集ま

る機会も少なくなってきたのが現状です。

【狩野委員】 取組の成果が見えづらいところにいろいろな思いがあるのではないかなと思います。全国学力学習状況調査の中の「学校に行くのが楽しい」という項目の数値が上がることも成果を判断する指標となるのではないかなと思います。そのあたりをPRするのも一つの方法かと思います。学校へ行くのが楽しいということは、勉強も順調、友達関係も良好、自分を認めてくれる場所であるという表れだと思います。そういう成果を発信していくことも大切かと思います。

【守本市長】 「学ぶ楽しさ日本一」をスタートする時に2つの話がありました。ひとつが先ほど申し上げた、取組を校長に語ってもらおうということ。もうひとつがさっき狩野委員がおっしゃった全国学力学習状況調査の「学校に行くのが楽しい」という項目があります。この数値は上がり続けていくことは大事なのですが、もともと高い水準にありますので、どこまでが明確な指標になるのかという疑問はあります。

本日は厳しい話もありましたが、「学ぶ楽しさ日本一」は、究極な目標として掲げております。そこに向かって進もうという南あわじ市の教育方針ですので、その取組や成果が出てこないということがひっかかります。教育委員会だけの問題ではないのかもしれませんが、せっかく目標を定めているのに進めなければ意義が減退してしまうという気持もあり、あえてこの場で申し上げさせていただきました。

4 閉 会

本日は、幅広くご意見をいただきありがとうございました。ご意見を参考にさせていただきます今後進めてまいりたいと思います。

これをもちまして、令和5年度第1回総合教育会議を閉会いたします。

午前11時53分